



風船爆弾の模型 平和のまちミュージアム(北九州市)  
弾のアルトニウム

第二次世界大戦中、日本は約8千<sup>キ</sup>離れたアメリカ本土に向けて、紙の風船に爆弾をぶら下げた気球型の「風船爆弾」を飛ばした。秘密裏に進められたことから全容を知らぬまま製造に関与した人々も多く、加害の実態と当事者意識の乖離がもたらす教訓を投げかけている。

風船爆弾は1943年、戦局が行き詰まる中で米国民の戦意喪失を狙う「決戦兵器」として

旧日本軍が登戸研究所(神奈川県川崎市)に開発を命じた。高度約1万<sup>フィート</sup>のジェット気流を利用することで太平洋を2、3日で越えることが可能だと分析。大分海軍航空隊(大分市)での実験で、気球を40時間以上浮遊させることに成功した。

風船は直径10<sup>フィート</sup>で、和紙をコンニャクのりで貼り合わせて製造。大分市の製紙工場でも用紙が生産された(大分の空襲を記録する会編『大分の空襲』)。

44、45年に約9千発が打ち上げられたが、米本土まで届いたのは千発程度。後に長崎に投下された原子爆

## 論説

2025.6.22

兵器と倫理



### 「風船爆弾」の教訓に学ぶ

い、あるいは知らされた場合も秘密を明かさないうちに強く言い含められたとされる。

米オレゴン州では風船爆弾に接触した民間人女性と子供計6人が死亡。後に作戦の全容を知った元女学生は、自らが携わった作業が引き起こした被害の実態に衝撃を受けたという。

念が高まっている。

ロシアとウクライナの戦闘ではドローンが多用され、イスラエルによるハマス攻撃でも標的の選定や追跡に人工知能(AI)が活用されているとの指摘がある。

国連は2023年、LAWSへの対応が急務とする決議を採

残虐な行為から人間の関与を遠ざけることは、戦争への歯止めを失いかねない。科学技術の偏った活用をいかに抑止するか。人の理性を反映するルールや国際的な枠組みが求められる。戦後80年の今、風船爆弾をめぐる教訓は、倫理面の重い課題を突き付けている。

精製施設で停電を発生させる例はあったが、戦果が限定的だったため作戦は中止された。

風船爆弾の製造は北九州市の小倉陸軍造兵廠や東京の宝塚劇場、西国国技館などで行われ、労働力として主に女学生が動員された。分業のため自分たちが何を作られているか分からない

加害の認識の有無は当事者の受け止め方を左右する。裏返せば罪悪感を抱かせないことで、戦争遂行を容易にすることが可能という点だ。

現代では、人が直接手を下すことなく攻撃できる「自律型致死兵器システム(LAWS)」の開発や運用が進み倫理的な懸

択したが、規制を巡る議論は道半ばだ。

心理的負担なく精密な攻撃が可能になることで他国への攻撃に対するハードルが下がる傾向がある。技術力の高い国が供給する兵器が戦局を大きく左右することから、大国の恣意的な関与への懸念も高い。



〔問①〕 風船爆弾の製造に動員された元女学生は、後に作戦の全容を知ってどのように感じましたか。

---

〔問②〕 国連は「自律型致死兵器システム（LAWS）」への対応が急務としていますが、主にどのようなことが懸念されると記事では書かれていますか。2つ書きましょう。

---

〔問③〕 この記事のまとめとして「倫理面の重い課題を突き付けている」と締めくくっています。あなたは「科学技術の隔たった活用」や「人の理性を反映するルール」についてどのように感じましたか。あなたの考えを書いてみましょう。また、周りの人とも意見交換してみましょう。